

# 医師が知りたい「あなたのおくすりの情報」は？



医師に安全で効果的な薬を選んでもらうために、また薬を安心して使うために、受診した時に伝えておいた方がよいことがあります。

## ● アレルギー歴や副作用歴を伝える

アレルギーや副作用が出たことのある薬については「日付（いつごろ）」「薬の名前」「症状」を報告しましょう。その症状の状態によっては、別の薬をすすめることがあります。

また、アレルギーが出たことのある食べ物も報告しておくことが大切です。アレルギーの原因となる成分が入っている薬があります。

## ● 今使っている薬や一緒に使う薬の名前を伝える

今使っている薬があれば医師に報告し、相互作用（のみ合わせ）を確認してもらいましょう。



## ● 使用状況を伝える

問題なく薬が使えたかどうかを報告しましょう。使えなかった薬について医師が知らないと、薬の効果をきちんと判断してもらえないことになります。こどもの場合、のみにくい薬、使いにくい薬など、事前にわかっていることを伝えて薬を選んでもらうとよいでしょう。



## ● 効果や副作用を伝える

医師は薬の効果を判断し、適切な薬を選択しています。薬を使ったときの症状の変化を確認し、次回受診した時に、医師に報告しましょう。

例えば、解熱薬を使用している場合、「何度から何度まで下がったのか」、「何回使ったのか」を伝えることにより、医師は症状の変化やその薬の効果を判断することができます。

また、薬を使用中に気になる症状についても報告しましょう。薬の副作用であることを医師が判断したときには、薬を変更することがあります。

忘れずに伝えるために、おくすり手帳などにメモをしておきましょう。もし、医師にどのように話したらよいのかわからないときは、薬剤師に相談してください。